

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成27年						平成28年																
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~6日	11月 ~13日	11月 ~20日	11月 ~27日	12月 ~4日	12月 ~11日	12月 ~18日
カンピロバクター	164	131	131	116	64	68	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	13	21	11	21	19	16 (17)	13
病原性大腸菌	195	127	95	134	147	174	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	49	54	39	38	39	26 (29)	26
腸管出血性大腸菌	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	20	37	14	36	19	11	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	2	1	1	0	3	1	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	37	26	18	26	15	25	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	2	1	2	3	3	4	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	15	19	14	17	22	21	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	3	5	3	3	3	10	4
腸炎ピブリオ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	7	8	2	1	1	0	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	1	0	1	0	1	0	1
ロタウイルス	0	0	0	0	1	2	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	0	0	0	0	0	21	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (8)	4

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
*その他の1件はアエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成28年第50週(12月12日~12月18日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	13	結核	13	2		1		6	3	1
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	3	オウム病	1					1		
		つつが虫病	2					2		
五類全数	5	ウイルス性肝炎	1	1						
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1					
		急性脳炎	1					1		
		梅毒	2		1			1		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

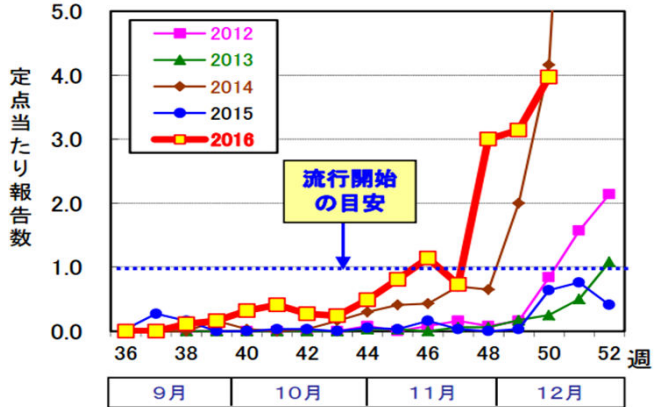
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第50週 12/12~12/18)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

インフルエンザの流行状況



1. インフルエンザ

定点当たり3.97人と、前週と比べてやや増加しました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は4件の報告があり、今シーズンの累計は13件となりました。なお、第50週の市内の基幹病院2か所(インフルエンザ定点ではない)による迅速診断キット検査結果では、報告のあった61人すべてA型陽性でした。今後、流行の拡大が予測されます。手洗い・うがいの励行、咳エチケットなど感染予防に努めましょう。

2. 感染性胃腸炎

定点当たり13.1人と、依然として流行が続いています。また、集団発生の報告が2件あり、今シーズンの累計は20件となりました。集団生活の場では、手洗いの励行、便・吐物の適切な処理など、特に徹底した予防対策を講じる必要があります。

3. 梅毒

1件の報告があり、今年の累計は24件となりました。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	147	3.97	2.47		↗	小児科	流行性耳下腺炎	6	0.25	0.87		
	咽頭結膜熱	6	0.25	0.45				RSウイルス感染症	7	0.29	1.26		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	2.42	2.67	↗	眼科		急性出血性結膜炎	-	-	0.05		
	感染性胃腸炎	314	13.08	14.67	↗			流行性角結膜炎	3	0.38	0.83		
	水痘	12	0.50	1.68		基幹		細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	18	0.75	0.39	↗			無菌性髄膜炎	-	-	0.11		
	伝染性紅斑	7	0.29	0.48				マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.74		
	突発性発しん	8	0.33	0.47				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	百日咳	1	0.04	0.13				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.03									

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	142	女性(30歳代)・1人、男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・3人
4	オウム病	1	1	男性(60歳代)・市外
4	つつが虫病	2	12	男性(70歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
5	急性脳炎	1	10	女性(10歳代)
5	梅毒	1	24	男性(20歳代)

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(38.6) 嘔吐 下痢	5	男	2016/11/09	糞便	ノロウイルスG2
その他の呼吸器疾患	発熱(39.5) 鼻炎	0	男	2016/11/03	糞便	アデノウイルス1型
その他の呼吸器疾患	気管支炎 意識障害	3	男	2016/11/06	咽頭拭い液 鼻汁(拭い液)	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載